

ものづくりの裏側 vol.05

2026.4-5



Q 紙はどうやって切っているの？

紙は「断裁機」という専用の機械で切っています。紙を何百枚も積み重ね、一度にまとめてまっすぐ切ることができます。印刷前に紙のサイズを整えたり、印刷後にA4などの仕上がりサイズに切りそろえたりする重要な工程です。



Answer

Q 刃を使うけど安全なの？



Answer

断裁機は安全面にも配慮されています。両手で2つのボタンを同時に押さないと刃が下りない仕組みで、万が一の手が入るとセンサーで停止します。また、操作は講習を受けた人だけが行うため、安全対策がしっかり取られています。

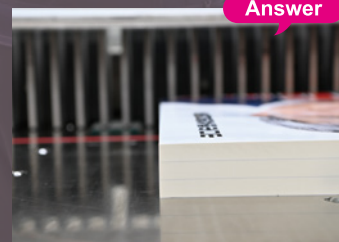
Q 塗り足して何のためにあるの？

仕上がりサイズぴったりには絵柄を配置すると、断裁時のわずかなズレで紙の白い部分が見えてしまうことがあります。これを防ぐため、デザインでは通常3ミリほど外側まで絵柄を伸ばして作成します。内製デザインでは見落とされがちなポイントです。



Answer

Q 断裁がずれるのはなぜ？



Answer

紙は束の状態で切るため、厚みや紙質によっては、刃が下りる途中でわずかにズレることがあります。特に滑りやすい紙では起こりやすく、1ミリ程度(場合によっては数ミリ)のズレが出ることもあります。圧力調整や刃の管理などで抑えますが、完全に防ぐのは難しく、ここに技術の差が表れます。



工務部製本課
O.K.さん (1982年入社)

2026年で勤続45年を迎えるベテラン社員。入社当初は小型オフセット印刷機や折り機を担当し、その後、長年にわたり断裁機を担当。現在は製本加工全般に精通している。

Interview 05

ものづくりの裏側で考えていることは？

気づけば40年、続けてきた仕事

40年以上、マルニで働いてきました。振り返ると、それなりに楽しく、やりがいを感じながら仕事を続けてきた結果、いつの間にかここまで長く勤めていたという感覚です。

入社以来、ほぼ製本課で作業に携わってきましたが、今でも新しい案件が入るとやる気が出ます。大量のチラシの断裁は時間がかかり大変な面もありますが、名刺や金券など仕事の内容が変わると面白さを感じます。新しい機械を覚えることにも楽しさを感じています。機械が好きで、ものづくりの過程そのものに魅力を感じています。

また、設備の進化も実感しています。以前は紙を床から持ち上げる作業が大きな負担でしたが、2019年にリフターが導入されたことで作業がしやすくなり、身体的な負担がかなり軽減されました。断裁機も入社当時は手回しの手動でしたが、現在は自動化されています。古い断裁

機は小さな画面に数字が表示されるだけでしたが、今では設定を記録して呼び出せるようになるなど、効率や精度も向上しています。こうした変化を経験できるのも、長く働いてきたからこそだと感じています。

紙の魅力とは

デジタルの情報は消えてしまうことがありますが、紙は形として残り続けるところに魅力があります。昔の書類をふと見つけたときに、その当時の出来事を思い出せるのは、紙ならではの良さだと感じます。仕事の中でも、紙の違いを日々実感しています。同じ厚さでも上質紙は軽く扱いやすく、コート紙は重く感じるなど、それぞれに特徴があります。紙によって作業のしやすさも変わるため、素材に向き合いながら仕事ができるのも、この仕事の面白さの一つです。紙に触れ続けてきたからこそ分かる感覚があり、それも長く続けてきた理由の一つだと思っています。

あなたの「作りたい」をお手伝い！

〔印刷物〕

- 会報・広報誌
- 冊子・パンフレット
- チラシ
- フライヤー
- ポスター
- 名刺・カード
- はがき・圧着はがき
- 封筒
- 伝票・帳票
- 商品券
- 記念誌
- 情報誌
- 偽造防止印刷
- 自費出版

〔デジタル制作〕

- ウェブサイト
- SNS 広告

〔屋外広告〕

- 看板・サイン
- のぼり・横断幕

〔ノベルティ〕

- オリジナルメモ帳
- オリジナルノート
- カレンダー
- クリアファイル
- ふせん・シール
- うちわ

〔パッケージ〕

- 紙箱
- 包装紙・紙袋
- ビニールバッグ
- エコバッグ

〔各種サービス〕

- 編集・原稿作成
- 写真撮影
- イラスト作成
- ロゴ作成
- 仕分け・配送
- 宛名印字
- 封入封緘
- アンケート集計

